

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コクリツダガクカクジシン シンシュウダガク								
フリガナ大学の名称	シンシュウダガクダクイン 信州大学大学院 (Graduate School, Shinshu University)								
大学本部の位置	長野県松本市旭三丁目1番1号								
大学の目的	信州大学大学院(以下「本大学院」という。)は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。また、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。								
新設学部等の目的	学校教育で求められる高度な専門性のもとにリーダーとしての力を有する人材養成の充実と発展を図ることを目的としている。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学研究科 〔Graduate School of Education〕 高度教職実践専攻 〔Division of Teacher Professional Development〕	2年	30人	-	60人	教職修士 (専門職) 【Master of Education in Teaching】	平成32年4月 第1年次	長野県長野市西長野6の口	
	計		30	-	60			14条特例の実施教職大学院	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>〔大学院〕</p> <p>総合人文社会科学研究科 総合人文社会科学専攻 (36) (平成31年3月意見伺い提出済)</p> <p>人文科学研究科 (廃止) 地域文化専攻 (△5) 言語文化専攻 (△5) ※平成32年4月学生募集停止</p> <p>教育学研究科 学校教育専攻 (廃止) (△20) 高度教職実践専攻 (廃止) (△20) ※平成32年4月学生募集停止</p> <p>経済・社会政策科学研究科 (廃止) 経済・社会政策科学専攻 (△6) イノベーション・マネジメント専攻 (△10) ※平成32年4月学生募集停止</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学研究科 高度教職実践専攻	11科目	103科目	5科目	119科目	45単位			
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	人	人	人	人	人	人	人	
	教育学研究科 高度教職実践専攻	8 (8)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	58 (58)	
	28 (28)	34 (34)	5 (5)	1 (1)	68 (68)	0 (0)	10 (10)		
計	36 (36)	42 (42)	5 (5)	3 (3)	86 (86)	0 (0)	68 (68)		
								平成31年3月意見伺い提出済	

組 織 の 概 要	既 設 分	総合理工学研究科 理学専攻	28 (29)	21 (21)	0 (0)	7 (7)	56 (57)	0 (0)	14 (14)
		工学専攻	47 (45)	54 (56)	2 (2)	22 (24)	125 (127)	0 (0)	0 (0)
		繊維学専攻	35 (35)	37 (37)	1 (1)	11 (11)	84 (84)	0 (0)	12 (12)
		農学専攻	23 (23)	22 (22)	1 (1)	18 (19)	67 (68)	3 (3)	7 (7)
		生命医工学専攻	7 (7)	9 (9)	1 (1)	7 (7)	21 (21)	0 (0)	22 (22)
		医学系研究科 医科学専攻	35 (35)	16 (16)	4 (4)	12 (12)	67 (67)	0 (0)	0 (0)
		保健学専攻	24 (24)	11 (11)	5 (5)	3 (3)	43 (43)	0 (0)	3 (2)
		総合医理工学研究科 医学系専攻	47 (47)	26 (26)	20 (20)	25 (25)	118 (118)	0 (0)	5 (5)
		総合理工学専攻	130 (133)	142 (142)	2 (2)	49 (49)	323 (326)	0 (0)	20 (20)
		生命医工学専攻	7 (7)	12 (12)	2 (2)	13 (13)	34 (34)	0 (0)	124 (128)
		全学教育機構	11 (12)	12 (12)	1 (2)	4 (4)	28 (30)	0 (0)	85 (85)
		計	394 (397)	362 (364)	39 (40)	171 (174)	966 (975)	3 (3)	292 (295)
		合計	430 (433)	404 (405)	44 (45)	174 (176)	1,052 (1,032)	3 (3)	360 (365)
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		402 (402)	446 (446)	848 (848)				
	技 術 職 員		1,046 (1,046)	541 (541)	1,587 (1,587)				
	図 書 館 専 門 職 員		26 (26)	0 (0)	26 (26)				
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	56 (56)	58 (58)				
計		1,476 (1,476)	1,043 (1,043)	2,519 (2,519)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	538,595㎡	0㎡	0㎡	538,595㎡				
	運 動 場 用 地	208,855㎡	0㎡	0㎡	208,855㎡				
	小 計	747,450㎡	0㎡	0㎡	747,450㎡				
	そ の 他	5,694,841㎡	0㎡	0㎡	5,694,841㎡				
合 計	6,442,291㎡	0㎡	0㎡	6,442,291㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		434,207㎡ ()	0㎡ ()	0㎡ ()	434,207㎡ ()				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	247 室	282 室	921 室	12 室 (補助職員15人)	5 室 (補助職員1人)	大学全体			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		教育学研究科 高度教職実践専攻		16 室					

地質科学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	平成7年度		※平成27年度より 学生募集停止
生物科学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	平成7年度		※平成27年度より 学生募集停止
物質循環学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	平成7年度		※平成27年度より 学生募集停止
数学科	4	54	3年次 1	163	学士(理学)	1.02	平成27年度		
理学科	4	151	3年次 3	456	学士(理学)	1.01	平成27年度		
医学部						1.00		長野県松本市旭3丁 目1番1号	
医学科	6	120	—	715	学士(医学)	1.00	昭和26年度		
保健学科	4	143	3年次 17	606	学士(看護学) 学士(保健学)	1.02	平成15年度		
工学部						1.03		長野県長野市若里4 丁目17番1号	
機械システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成10年度		※平成28年度より 学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成元年度		※平成28年度より 学生募集停止
土木工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
物質工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成10年度		※平成28年度より 学生募集停止
情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成元年度		※平成28年度より 学生募集停止
環境機能工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成10年度		※平成28年度より 学生募集停止
物質化学科	4	95	—	190	学士(工学)	1.03	平成28年度		
電子情報システム工学科	4	170	—	340	学士(工学)	1.02	平成28年度		
水環境・土木工学科	4	60	—	120	学士(工学)	1.04	平成28年度		
機械システム工学科	4	100	—	200	学士(工学)	1.04	平成28年度		
建築学科	4	60	—	120	学士(工学)	1.04	平成28年度		
農学部						1.03		長野県上伊那郡南 箕輪村8304	
食料生産科学科	4	—	—	—	学士(農学)	—	平成9年度		※平成27年度より 学生募集停止
森林科学科	4	—	—	—	学士(農学)	—	平成9年度		※平成27年度より 学生募集停止
応用生命科学科	4	—	—	—	学士(農学)	—	平成9年度		※平成27年度より 学生募集停止
農学生命科学科	4	170	3年次 6	516	学士(農学)	1.03	平成27年度		
繊維学部						1.04		長野県上田市常田3 丁目15番1号	
先進繊維工学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
感性工学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
機能機械学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
バイオエンジニアリング課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
応用化学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
材料化学工学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
機能高分子学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
生物機能科学課程	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
生物資源・環境科学課程	4	—	—	—	学士(農学)	—	平成20年度		※平成28年度より 学生募集停止
先進繊維・感性工学科	4	65	—	130	学士(工学)	1.03	平成28年度		

機械・ロボット学科	4	60	—	120	学士(工学)	1.07	平成28年度		
化学・材料学科	4	105	—	210	学士(工学)	1.02	平成28年度		
応用生物科学科	4	50	—	100	学士(農学)	1.07	平成28年度		
人文科学研究科								長野県松本市旭3丁目1番1号	
地域文化専攻	2	—	—	—	修士(文学)	—	昭和57年度		※平成32年度より学生募集停止
言語文化専攻	2	—	—	—	修士(文学)	—	昭和57年度		※平成32年度より学生募集停止
教育学研究科								長野県長野市大字西長野6の口	
学校教育専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成3年度		※平成32年度より学生募集停止
高度教職実践専攻	2	—	—	—	教職修士(専門職)	—	平成28年度		※平成32年度より学生募集停止
経済・社会政策科学研究科									
経済・社会政策科学専攻	2	—	—	—	修士(経済学)	—	平成元年度	長野県松本市旭3丁目1番1号	※平成32年度より学生募集停止
イノベーション・マネジメント専攻	2	—	—	—	修士(マネジメント)	—	平成15年度	長野県長野市若里4丁目17番1号	※平成32年度より学生募集停止
理工学系研究科									
地球生物圏科学専攻	2	—	—	—	修士(理学)	—	平成24年度	長野県松本市旭3丁目1番1号	※平成28年度より学生募集停止
機械システム工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度	長野県長野市若里4丁目17番1号	※平成28年度より学生募集停止
電気電子工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
土木工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
建築学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
物質工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
情報工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
環境機能工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
繊維・感性工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
機械・ロボット学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
化学・材料専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成24年度		長野県上田市常田3丁目15番1号
応用生物科学専攻	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成24年度		※平成28年度より学生募集停止
農学研究科									
森林科学専攻	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成4年度	長野県上伊那郡南箕輪村8304	※平成28年度より学生募集停止
総合理工学研究科						1.07			
理学専攻	2	75	—	150	修士(理学)	0.83	平成28年度	長野県松本市旭3丁目1番1号	
工学専攻	2	240	—	480	修士(工学)	1.20	平成28年度	長野県長野市若里4丁目17番1号	
繊維学専攻	2	160	—	320	修士(工学) 修士(農学)	1.12	平成28年度	長野県上田市常田3丁目15番1号	
農学専攻	2	65	—	130	修士(農学)	0.80	平成28年度	長野県上伊那郡南箕輪村8304	
生命医工学専攻	2	35	—	70	修士(医工学)	1.03	平成28年度	長野県松本市旭3丁目1番1号 長野県長野市若里4丁目17番1号 長野県上田市常田3丁目15番1号 長野県上伊那郡南箕輪村8304	
医学系研究科(修士・博士前期課程)						1.07		長野県松本市旭3丁目1番1号	
医科学専攻(修士課程)	2	12	—	24	修士(医科学)	0.95	平成14年度		
保健学専攻(博士前期課程)	2	14	—	28	修士(看護学) 修士(保健学)	1.17	平成19年度		

既設大学等の状況	医学系研究科（博士課程）								長野県松本市旭3丁目1番1号	
	医学系専攻（博士課程）	4	40	—	160	博士(医学)	—	平成24年度		※平成30年度より学生募集停止
	疾患予防医学系専攻（博士課程）	4	8	—	32	博士(医学)	—	平成24年度		※平成30年度より学生募集停止
	医学系専攻（博士課程）	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成15年度		※平成24年度より学生募集停止
	臓器移植細胞工学医科学系専攻（博士課程）	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		※平成24年度より学生募集停止
	医学系研究科（博士後期課程）								長野県松本市旭3丁目1番1号	
	保健学専攻（博士後期課程）	3	4	—	12	博士(保健学)	—	平成21年度		※平成30年度より学生募集停止
	総合工学系研究科									
	生命機能・ファイバー工学専攻	3	15	—	45	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学)	—	平成17年度	長野県松本市旭3丁目1番1号 長野県長野市若里4丁目17番1号 長野県上田市常田3丁目15番1号 長野県上伊那郡南箕輪村8304	※平成30年度より学生募集停止
	システム開発工学専攻	3	12	—	36		—	平成17年度		
	物質創成科学専攻	3	7	—	21		—	平成17年度		
	山岳地域環境科学専攻	3	8	—	24		—	平成17年度		
	生物・食料科学専攻	3	7	—	21		—	平成17年度		
	総合医理工学研究科							1.06		
	医学系専攻	4	42	—	168	博士(医学)	}	平成30年度	長野県松本市旭3丁目1番1号	
		3	6	—	18	博士(保健学)		平成30年度	長野県松本市旭3丁目1番1号	
	総合理工学専攻	3	38	—	114	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学)	}	1.15	平成30年度	
										長野県松本市旭3丁目1番1号 長野県長野市若里4丁目17番1号 長野県上田市常田3丁目15番1号 長野県上伊那郡南箕輪村8304
	生命医工学専攻	4	10	—	40	博士(医学)	}	平成30年度	長野県松本市旭3丁目1番1号	
		3	5	—	15	博士(医工学)		1.40	平成30年度	長野県松本市旭3丁目1番1号
	<p>名称：医学部附属病院 目的：診療・教育・研究を遂行する。また先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人の育成・研修の充実を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 81,856㎡</p>									
	<p>名称：中央図書館 目的：学術情報基盤組織として教育・研究を推進する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成23年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 6,358㎡</p>									
	<p>名称：全学教育機構 目的：共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 13,003㎡</p>									
	<p>名称：総合健康安全センター 目的：学生・教職員の健康管理や教育研究現場及び職場の快適な環境の実現を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成22年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 本部（16,764㎡）の一部</p>									

附属施設の概要

<p>名称：総合情報センター 目的：キャンパスを結ぶネットワークや情報処理システム等の維持・管理を行うと共に、学術研究、情報処理教育システムなどの開発・提供を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成21年10月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 234㎡</p>	
<p>名称：男女共同参画推進センター 目的：男女が個性と能力を十分に発揮することができる職場・教育環境を実現するとともにワーク・ライフ・バランス推進を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成27年9月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 本部（16,764㎡）の一部</p>	
<p>名称：アドミッションセンター 目的：入学者選抜及びセンター試験の円滑な実施を図り、アドミッションポリシーに即した入試システムの研究開発と入学希望者に対する広報活動を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成14年10月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 本部（16,764㎡）の一部</p>	
<p>名称：高等教育研究センター 目的：大学における体系的な教育課程の構築を支援するとともに、教育の質保証に係る戦略及び教学関連の施策実施のための手法に係る研究開発を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成23年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：e-Learningセンター 目的：情報通信技術を活用した教育の改革と改善を支援する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成19年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：環境マインド推進センター 目的：自然と社会と個人の調和を生み出す環境マインド育成を推進する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成20年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 本部（16,764㎡）の一部</p>	
<p>名称：グローバル教育推進センター 目的：グローバル教育の推進、学生の海外留学を含む海外派遣の促進、外国人留学生の受入強化と日本語等に関する教育の実施及び国際交流方針の策定等を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成27年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：学生相談センター 目的：学生生活の悩み・不安などの相談を受け付け、学生の快適なキャンパスライフをサポートする。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：学生総合支援センター 目的：一元的な学生支援体制を実現し、学生生活全般の教育・指導・支援を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	

<p>名称：キャリア教育・サポートセンター 目的：学生のキャリア教育及び就職支援を推進する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：教員免許更新支援センター 目的：教育職員免許法に規定する免許状更新講習の企画及び円滑な実施を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成20年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：教職支援センター 目的：教職課程を有する学部/学科の教職教育のカリキュラムの設計・管理・実施を支援する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：基盤研究支援センター 目的：より高度な実験を、安全かつ効率的に実施するとともに、各分野にわたり総合的な支援のできる人材育成を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 総合研究棟（7,140㎡） 臨床実験施設（5,176㎡）</p>	
<p>名称：地域防災減災センター 目的：地域の防災・減災に係る教育研究を推進するとともに、本学の研究成果等を活用し、地域連携による地域の防災・減災力の強化を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成27年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 本部（16,764㎡）の一部</p>	
<p>名称：信州地域技術メディカル展開センター 目的：信州大学等の研究シーズ及び技術シーズを、メディカル領域へ展開して、地域のメディカル産業を飛躍的に発展させる。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成25年4月 規模等：土地 松本キャンパス（313,679㎡）の一部 建物 3,317㎡</p>	
<p>名称：オープンベンチャー・イノベーションセンター 目的：産学官連携体制を強化するとともに、オープンイノベーションの推進により、地域で生まれた研究開発成果の事業化を実現し、地域の雇用創出と経済活性化を図ることを目的とする。 所在地：長野県上田市踏入2丁目16番24号 設置年月：平成30年4月 規模等：土地 上田キャンパス（132,591㎡）の一部 建物 1,820㎡</p>	

国立大学法人信州大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

平成32年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

変更の事由

信州大学	入学定員	編入学定員	収容定員
人文学部		3年次	
人文学科	155	5	630
教育学部			
学校教育教員養成課程	240	—	960
経法学部		2年次	
応用経済学科	100	10	430
総合法律学科	80	10	350
理学部		3年次	
数学科	54	1	218
理学科	151	3	610
医学部		3年次	
医学科(6年制)	120	—	660
保健学科	143	17	606
工学部		3年次	
物質化学科	95	4	388
電子情報システム工学科	170	7	694
水環境・土木工学科	60	3	246
機械システム工学科	100	4	408
建築学科	60	2	244
農学部		3年次	
農学生命科学科	170	6	692
繊維学部		3年次	
先進繊維・感性工学科	65	2	264
機械・ロボット学科	60	2	244
化学・材料学科	105	4	428
応用生物科学科	50	2	104
計	1978	20 3年次 62	8176

信州大学	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
人文学部		3年次		
人文学科	155	5	630	
教育学部				
学校教育教員養成課程	240	—	960	
経法学部		2年次		
応用経済学科	100	10	430	
総合法律学科	80	10	350	
理学部		3年次		
数学科	54	1	218	
理学科	151	3	610	
医学部		3年次		
医学科(6年制)	120	—	660	
保健学科	143	17	606	
工学部		3年次		
物質化学科	95	4	388	
電子情報システム工学科	170	7	694	
水環境・土木工学科	60	3	246	
機械システム工学科	100	4	408	
建築学科	60	2	244	
農学部		3年次		
農学生命科学科	170	6	692	
繊維学部		3年次		
先進繊維・感性工学科	65	2	264	
機械・ロボット学科	60	2	244	
化学・材料学科	105	4	428	
応用生物科学科	50	2	104	
計	1978	20 3年次 62	8176	
信州大学大学院				
総合人文社会科学研究所				} 研究科の設置(意見伺い)
総合人文社会科学専攻	36	—	72	
人文科学研究科				} 平成32年4月学生募集停止
地域文化専攻(M)	5	—	10	
言語文化専攻(M)	5	—	10	
教育学研究所				} 平成32年4月学生募集停止
学校教育専攻(M)	20	—	40	
高度教職実践専攻(P)	20	—	40	
経済・社会政策科学研究科				} 平成32年4月学生募集停止
経済・社会政策科学専攻(M)	6	—	12	
イノベーション・マネジメント専攻(M)	10	—	20	
総合理工学研究科				
理学専攻(M)	75	—	150	
工学専攻(M)	240	—	480	
繊維学専攻(M)	160	—	320	
農学専攻(M)	65	—	130	
生命医工学専攻(M)	35	—	70	
医学系研究所				
医科学専攻(M)	12	—	24	
保健学専攻(M)	14	—	28	
総合医理工学研究科				
医学系専攻				
(4年制D)	42	—	168	
(3年制D)	6	—	18	
総合理工学専攻	38	—	114	
生命医工学専攻				
(4年制D)	10	—	40	
(3年制D)	5	—	15	
計	768	—	1689	

教育課程等の概要(事前伺い)

(大学院教育学研究科 高度教職実践専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	A:教育課程の編成・実施	特色ある教育課程の編成と評価	1通	2				○		1	2					共同	
	B:教科等の実践的な指導方法	授業研究と教育評価	1通	2				○		5	3					共同	
	C:生徒指導,教育相談	特別な教育的ニーズのある子どもの支援体制	1通	2				○			1				兼1	共同	
	D:学級経営,学校経営	学級づくりと学校づくり	1通	2				○		1	1				兼1	共同	
	E:学校教育と教員の在り方	未来の学校と期待される教師Ⅰ	1通	2				○		1	3					共同	
		未来の学校と期待される教師Ⅱ	2通	2				○		2	3					共同	
		小計(6科目)	—	12	0	0		—		7	6	0	0	0	兼1		
	(必修)5領域横断	領域E(領域Dを含む)	状況分析チーム演習	1前	1				○		6	7		1		兼1	共同
		領域D(領域A,Cを含む)	授業・学級づくりチーム演習	1後	1				○		6	7		1		兼1	共同
		領域B(領域A,Dを含む)	個に応じた教育チーム演習	2前	1				○		6	7		1		兼1	共同
		領域A(領域B,C,D,Eを含む)	学校・地域活性化チーム演習	2後	1				○		6	7		1		兼1	共同
			小計(4科目)	—	4	0	0		—		6	7	0	1	0	兼1	
	教職基盤形成コース		教育臨床研究入門	1前	1				○		5	3				兼4	共同
			臨床実践研究とリフレクションⅠ	1前		1			○		6	6					共同
		臨床実践研究とリフレクションⅡ	1後		1			○		6	6					共同	
		臨床実践研究とリフレクションⅢ	2前		1			○		6	6					共同	
		臨床実践研究とリフレクションⅣ	2後		1			○		6	6					共同	
		臨床実践研究とリフレクションⅠ(特別支援教育高度化P)	1前		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		臨床実践研究とリフレクションⅡ(特別支援教育高度化P)	1後		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		臨床実践研究とリフレクションⅢ(特別支援教育高度化P)	2前		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		臨床実践研究とリフレクションⅣ(特別支援教育高度化P)	2後		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		小計(9科目)	—	1	8	0		—		7	7	0	2	0	兼5		
コース科目		メンタリングの理論と実践	2通	1				○		2	3				兼1	共同	
		高度実践研究とリフレクションⅠ	1前		1			○		6	7					共同	
		高度実践研究とリフレクションⅡ	1後		1			○		6	7					共同	
		高度実践研究とリフレクションⅢ	2前		1			○		6	7					共同	
		高度実践研究とリフレクションⅣ	2後		1			○		6	7					共同	
		高度実践研究とリフレクションⅠ(特別支援教育高度化P)	1前		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		高度実践研究とリフレクションⅡ(特別支援教育高度化P)	1後		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		高度実践研究とリフレクションⅢ(特別支援教育高度化P)	2前		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		高度実践研究とリフレクションⅣ(特別支援教育高度化P)	2後		1			○		1	1		2		兼1	共同	
		小計(9科目)	—	1	8	0		—		7	8	0	2	0	兼1		

教育課題探究プログラム	学校マネジメント	2通		2		○			2	1					※演習 共同
	校内研究の企画・運営	1前		1			○		1	4					共同
	通常学級における特別支援教育	1・2後		1			○			1		1			兼1 特別支援教育 高度化Pと共通 共同
	へき地・小規模校における教育実践	1・2通		1			○		1	1					兼1 共同
	学校におけるICT活用	1前		1			○			2					兼1 共同
	海外学校臨床実習	1・2通		2				○	1	1					隔年 共同
	教育課題特別演習Ⅰ	1・2通		1			○			3					共同
	教育課題特別演習Ⅱ	1・2通		1			○			4					共同
	学校における学習の心理過程	1・2前		1			○								兼1 ※講義
	学校における防災教育	1・2後		1			○								兼4 ※講義 共同
	学校における体験活動	1・2前		2			○		1						兼1 共同
	学校における多文化教育	1・2後		1			○								兼1
	持続可能な社会づくりと教育	1・2前		1			○								兼2 共同
	学校教育と市民性	1・2後		1			○								兼2 共同
	学校における異文化間コミュニケーション教育・多 様性対応教育	1・2前		1			○								兼1
小計（15科目）	—	0	18	0		—		4	7	0	1	0		兼13	
選択科目 教科授業力高度化プログラム	教科横断教育研究論	1・2前		2		○			3						兼26 共同
	教科横断内容研究基礎	1・2前		1			○		2						兼26 共同
	教育調査方法基礎	1・2前		1			○		2						兼19 共同
	国語科授業内容研究	1・2前		1			○								兼3 共同
	国語科教材開発演習	1・2前		1			○								兼2 共同
	国語科授業分析演習	1・2後		1			○		1						兼2 共同
	国語科指導案構築演習	1・2後		1			○								兼2 共同
	国語科授業方法研究	1・2後		1			○		1						兼1 共同
	社会科授業内容研究	1・2前		1			○								兼5 共同
	社会科教材開発演習	1・2前		1			○								兼5 共同
	社会科授業分析演習	1・2後		1			○								兼2 共同
	社会科指導案構築演習	1・2後		1			○								兼2 共同
	社会科授業方法研究	1・2後		1			○								兼7 共同
	算数・数学科授業内容研究	1・2前		1			○		1						兼4 共同
	算数・数学科教材開発演習	1・2前		1			○		1						兼4 共同
	算数・数学科授業分析演習	1・2後		1			○		1						兼4 共同
	算数・数学科指導案構築演習	1・2後		1			○		1						兼4 共同
	算数・数学科授業方法研究	1・2後		1			○		1						兼4 共同
	理科授業内容研究	1・2前		1			○		1						兼6 共同
	理科教材開発演習	1・2前		1			○		1						兼6 共同
	理科授業分析演習	1・2後		1			○		1						
	理科指導案構築演習	1・2後		1			○		1						
	理科授業方法研究	1・2後		1			○		1						
	音楽科授業内容研究	1・2前		1			○								兼6 共同
	音楽科教材開発演習	1・2前		1			○								兼6 共同
	音楽科授業分析演習	1・2後		1			○								兼2 共同
	音楽科指導案構築演習	1・2後		1			○								兼2 共同
	音楽科授業方法研究	1・2後		1			○								兼3 共同
図画工作・美術科授業内容研究	1・2前		1			○								兼2 共同	
図画工作・美術科教材開発演習	1・2前		1			○								兼2 共同	
図画工作・美術科授業分析演習	1・2後		1			○								兼2 共同	
図画工作・美術科指導案構築演習	1・2後		1			○								兼2 共同	
図画工作・美術科授業方法研究	1・2後		1			○								兼1	
保健体育科授業内容研究	1・2前		1			○								兼2 共同	
保健体育科教材開発演習	1・2前		1			○								兼2 共同	
保健体育科授業分析演習	1・2後		1			○								兼2 共同	
保健体育科指導案構築演習	1・2後		1			○								兼2 共同	
保健体育科授業方法研究	1・2後		1			○								兼6 共同	
ものづくり授業内容研究	1・2前		1			○								兼3 共同	

	ものづくり教材開発演習	1・2前		1			○							兼3	共同	
	ものづくり授業分析演習	1・2後		1			○							兼1		
	ものづくり指導案構築演習	1・2後		1			○							兼1		
	ものづくり授業方法研究	1・2後		1			○							兼4	共同	
	家庭科授業内容研究	1・2前		1			○							兼4	共同	
	家庭科教材開発演習	1・2前		1			○							兼4	共同	
	家庭科授業分析演習	1・2後		1			○							兼1		
	家庭科指導案構築演習	1・2後		1			○							兼1		
	家庭科授業方法研究	1・2後		1			○							兼4	共同	
	英語科授業内容研究	1・2前		1			○							兼3	共同	
	英語科教材開発演習	1・2前		1			○							兼3	共同	
	英語科授業分析演習	1・2後		1			○		1					兼1	共同	
	英語科指導案構築演習	1・2後		1			○		1					兼2	共同	
	英語科授業方法研究	1・2後		1			○		1					兼1	共同	
	健康環境授業内容研究	1・2前		1			○							兼7	共同	
	芸術鑑賞授業内容研究	1・2前		1			○							兼3	共同	
	芸術鑑賞教材開発演習	1・2前		1			○							兼3	共同	
	STEM授業内容研究	1・2前		1			○		2	1				兼1	共同	
	STEM教材開発演習	1・2後		1			○		2	1				兼1	共同	
	教科課題特別研究Ⅰ	1通		2			○		4					兼45	共同	
	教科課題特別研究Ⅱ	2通		2			○		4					兼45	共同	
	小計（60科目）	—	0	63	0		—		4	1	0	0	0	兼49		
特別支援教育高度化プログラム	知的障害児の理解と支援	1・2前		2			○		1							
	肢体不自由児の理解と支援	1・2後		1			○			1					※演習	
	病弱児の理解と支援	1・2後		1			○			1		1			※演習 共同	
	発達障害児の理解と支援	1・2前		2			○					1				
	情緒障害・行動問題の理解と支援	1・2後		2			○					1				
	特別なニーズのある子どもの自立活動	1・2前		2			○		1	1		1			共同	
	特別なニーズのある子どもの教科研究	1・2通		2			○		1	1		2			兼1 共同	
	特別支援教育コーディネーターの役割と支援	1・2後		2			○								兼1	
	通常学級における特別支援教育	1・2後		1			○			1		1			兼1	教育課題探求Pと共通 共同
	特別支援教育教材開発研究	1通		2			○		1	1		2			兼1	※実習 共同
特別支援教育課題特別研究Ⅰ	1通		2			○		1	1		2			兼1	共同	
特別支援教育課題特別研究Ⅱ	2通		2			○		1	1		2			兼1	共同	
小計（12科目）	—	0	21	0		—		1	1	0	2	0		兼1		
学校実習 教職基盤形成コース／高度教職開発コース	教育実践実地研究Ⅰ	1通		3			○		7	7					教育課題探求P 教授業力高度化P 共同	
	教育実践実地研究Ⅰ （特別支援教育高度化P）	1通		3			○		1	1		2			兼1 共同	
	教育実践実地研究Ⅱ	2通		7			○		7	7					教育課題探求P 教授業力高度化P 共同	
	教育実践実地研究Ⅱ （特別支援教育高度化P）	2通		7			○		1	1		2			兼1 共同	
	小計（4科目）	—	0	20	0		—		8	8	0	2	0		兼1	
合計（119科目）		—	18	138	0		—		8	8	0	2	0		兼58	
学位又は称号	教職修士（専門職）		学位又は学科の分野				教員養成関係									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>卒業要件は、共通科目16単位、コース科目5単位、選択科目14単位以上、学校実習10単位、計45単位以上修得する。</p> <p>各科目区分の履修は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目は、16単位（必修）修得する。 ・コース科目はコース別に指定された科目から、必修1単位、選択必修4単位、計5単位修得する。 ・選択科目は、各自が選択したプログラムの科目から12単位以上を含み、計14単位以上修得する。なお教科授業力高度化プログラムを選択した場合は、特定の教科領域の科目を5単位含んで修得する。 ・学校実習は、選択したプログラムに応じて10単位修得する。 <p>履修科目の登録上限：40単位（年間）</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業時間	100分

授 業 科 目 の 概 要

(大学院教育学研究科 高度教職実践専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目 指定 5 領域	特色ある教育課程の編成と評価	学校ごとに主体的に教育課程を編成する意義とそのための基本原理を理解するとともに、教育課程の編成方法とその評価・改善の方法等を理解する。また、各地の特色ある教育課程及び各種カリキュラムの開発・実践校へのフィールドワークを通して、地域の実情に応じたカリキュラムづくりの要件を明らかにする。教育課程の特例校及び各種研究指定校をはじめ、特色ある教育課程を実践している学校現場への参観、共同研究の機会を毎月複数回設定する。学生はそこから日程的に参加可能なものを4つ以上選択して実地視察研究に参加して、それぞれの地域の実態や校内事情に応じた教育課程編成の取組を事例研究することになる。	共同
	授業研究と教育評価	魅力ある授業づくりのための授業観の追究と具体的な学習指導計画づくりを、教科・領域の枠を越えて吟味・検討する。また、授業技術や学習形態・指導体制を柔軟に工夫し、子どもに確かな学力を保証する実践的指導力を身につけるとともに、学力の妥当な測定方法など教育評価についての知識を身につける。授業は、授業参観と小グループでの授業検討会により展開する。授業参観は、附属学校の公開研究会を参観する。小グループの授業検討会は、①授業設計、②授業技術、③教育評価、④授業観の再構成、の4点について検討する。	共同
	特別な教育的ニーズのある子どもの支援体制	この授業は、援助ニーズの高い児童生徒のための支援体制を構築し、児童生徒のニーズに応じたチーム支援が展開できるようになることをねらいとして、講義と演習により展開する。具体的には、前半で行動観察法及び援助体制の把握と分析に関する講義を行う。後半は、児童生徒の行動観察を行い、この分析を基に子どもの伝達意図・適切な対応を検討する演習を行う。さらには、子どもを取り巻く援助体制の実態と課題について検討を行う。	共同
	学級づくりと学校づくり	学級経営及び学校経営に関する様々な課題を対象とし、最新の研究成果に基づいた問題解決策を考え合う演習である。特に、受講生が経験してきた事例や拠点校での切実な課題等に向き合い、学級経営の全体構造と教師の役割を理解し、学級の状況に即した学級経営改善方針の立案とそのための具体的な取組を、事例研究を通して具体的に学ぶ。また、学校組織のマネジメントや同僚性の活性化、学校運営の改善を目指した学校評価のあり方などについて、専門的知識を高めながら実践的力を身につける。	共同
	未来の学校と期待される教師I	それまでの自分の考え方・認識の枠組みをいったん離れて、教師に求められていることを多面的に分析・整理し、自分の立ち位置を再確認しながら、自分の課題や学校課題の解決方法を検討していく。また、学校を取り巻く地域の実態や、国や地方自治体の教育政策の最新事情などを学び合うことを通して、教職に就く者としての倫理や使命感を高める。そして、この授業を通して、社会が教師に期待する役割を考え、現在の社会における学校教育の位置づけを理解し、各自の研究課題と関連させて考察できるようになる。	共同

	未来の学校と期待される教師Ⅱ	①社会が学校教育に求める役割の多面性、多義性に関する知識、②教育実践の革新に研究が果たしてきた役割、③国内外の教育政策の動向とその背景、に関する基本的な知識をふまえ、現在の社会における学校教育の位置づけを理解し、各自の研究課題と関連させて考察できるようになることをねらいとする。授業においては、現代社会及び未来社会における学校教育の役割や課題を多角的に議論し、「学び続ける教師」であり続けることの意義を理解するとともに、国内外の教育事情を踏まえて、未来の学校に求められることや将来を担う子どもに必要な教育について広い視野から検討し合う。	共同
5 領域 横断 (必修)	状況分析チーム演習	原則として、拠点校において実施される最初のチーム演習である。拠点校における課題を様々な観点から分析し、問題の構造を複眼的・多面的に捉える見方・考え方を鍛えることをねらいとする。指定5領域のうち、「学級経営・学校経営」と「学校教育と教員の在り方」に関する領域をコアとし、拠点校における教育実践上の課題をさまざまな観点から捉え直し、課題解決の到達目標とそのための方等を集団で検討する場とする。各回のチーム演習には、あらかじめレポーターとなる院生がカンファレンス資料を作成しておき、チーム演習の際にメンバーに配付して議論の記録も加筆できるようにしておく。	共同
	授業・学級づくりチーム演習	原則として、拠点校において実施される1年次後期のチーム演習である。これは、教育実地研究において学級集団に着目した学習指導や生活指導に関する諸課題を取り上げ、学習チームでその問題の構造や解決策を議論し合う演習となる。指定5領域のうち、「教育課程の編成・実施」と「生徒指導・教育相談」及び「学級経営・学校経営」に関する領域をコアとする。拠点校における教育実践上の課題を抽出し、課題解決の到達目標とそのための方等を検討し、各回のチーム演習の際に協同で問題解決の進捗状況を確認しながら議論を進める。各回のチーム演習には、あらかじめレポーターとなる院生が活動記録ないしカンファレンス資料を作成しておき、チーム演習の際にメンバーに配付して議論の記録も加筆できるようにしておく。	共同
	個に応じた教育チーム演習	原則として、拠点校において実施される2年次前期のチーム演習である。この演習では、教育実践実地研究を通して抽出された学級経営ないし学習指導上の課題のうち、特定の児童生徒をめぐる個別的事例に着目し、そのケアを多面的に検討し合うケース・カンファレンスを中心にした議論となる。指定5領域のうち、「教育課程の編成・実施」と「教科等の実践的な指導方法」及び「学級経営・学校経営」に関する領域をコアとし、拠点校における教育実践上の課題をさまざまな観点から捉え直し、課題解決の到達目標とそのための方等を集団で検討する場とする。各回のチーム演習には、あらかじめレポーターとなる院生がカンファレンス資料を作成しておき、チーム演習の際にメンバーに配付して議論の記録も加筆できるようにしておく。	共同
	学校・地域活性化チーム演習	原則として、拠点校において実施される2年次後期のチーム演習である。この演習では、学校という枠を越えて、地域社会の様々な人々と連携したコミュニティーを形成する視野をもって学校としての課題を考えるチーム演習を行う。「教育課程の編成・実施」、「教科等の実践的な指導方法」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」、「学校教育と教員の在り方」の必修5領域を融合した総合的な課題として捉え、その解決に求められる手立てを検討する。各回のチーム演習には、あらかじめレポーターとなる院生がカンファレンス資料を作成しておき、チーム演習の際にメンバーに配付して議論の記録も加筆できるようにしておく。	共同

コース科目	教職基盤形成コース	教育臨床研究入門	この授業は、授業実践力の向上を目指す院生を対象に、フィールドワークや実地研究、現場での課題探究に先立ち実施する授業である。臨床現場における実践や観察の意義、観察の視点、観察・実践の基本的マナーについて理解することをねらいとして、学生のプレゼンテーション、ディスカッション、教員からのコメントにより展開する。観察の視点や意義を共有することにより、その後のフィールドワークや実地研究等での観察をより有意義なものとなることが期待される。	共同
		臨床実践研究とリフレクションⅠ	この授業では、理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的に捉えるとともに、これを主体的に解決する力を養うことを目的とする。授業は原則として担当教員との個別指導により展開する。具体的内容としては、①2年間で追究する自らの課題を明確化する、②他の授業での成果に基づき自らの課題を検討する、③自らの課題について文献や情報から検討する、などである。担当教員とのディスカッションによりこれらの活動を進め、課題追究にあたる。	共同
		臨床実践研究とリフレクションⅡ	この授業では、①実践校・実践クラスの実態を把握・分析すること、②他の授業での成果に基づき自らの課題を省察的に検討すること、③自らの課題について文献や情報から検討することを目的とする。授業は、原則として担当教員との個別指導により展開し、授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、これらを担当教員とディスカッションすることにより課題追究にあたる。	共同
		臨床実践研究とリフレクションⅢ	この授業では、①実践校・実践クラスの変化に伴う実態を把握・分析すること、②他の授業での成果に基づき、自らの課題を省察的に検討すること、③自らの課題について文献や情報から検討すること、④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の方向性や内容を検討することを目的とする。授業は、原則として担当教員との個別指導により展開し、授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、担当教員とのディスカッションにより考察を深め課題追究にあたる。	共同
		臨床実践研究とリフレクションⅣ	この授業では、①実践による変化を把握・分析すること、②他の授業での成果に基づき自らの実践を振り返ること、③自らの課題について文献や情報から検討すること、④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の成果と課題をまとめることを目的とする。授業は、原則として担当教員との個別指導により展開し、授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、担当教員とのディスカッションにより考察を深め課題追究にあたる。	共同

<p>臨床実践研究とリフレクションⅠ (特別支援教育高度化P)</p>	<p>「臨床実践研究とリフレクション(特別支援教育P)」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、実践的指導力と家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。</p> <p>1年次前期「臨床実践研究とリフレクションⅠ(特別支援教育P)」におけるねらいは以下の通りである。</p> <p>①2年間で追究する自らの課題を明確化することができる。</p> <p>②特別支援教育Pの各授業に基づき、自らの課題を省察的に検討することができる。</p> <p>③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、課題と関連づけて検討することができる。</p> <p>本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。</p>	<p>共同</p>
<p>臨床実践研究とリフレクションⅡ (特別支援教育高度化P)</p>	<p>「臨床実践研究とリフレクション(特別支援教育P)」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、実践的指導力と家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。</p> <p>1年次後期「臨床実践研究とリフレクションⅡ(特別支援教育P)」におけるねらいは以下の通りである。</p> <p>①課題追究に先立ち、実践校・実践クラスの実態を把握・分析することができる。</p> <p>②臨床実践研究とリフレクションⅠを基に、自らの課題を省察的に検討することができる。</p> <p>③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、実践と関連づけて検討することができる。</p> <p>本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。</p>	<p>共同</p>
<p>臨床実践研究とリフレクションⅢ (特別支援教育高度化P)</p>	<p>「臨床実践研究とリフレクション(特別支援教育P)」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、実践的指導力と家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。</p> <p>2年次前期「臨床実践研究とリフレクションⅢ(特別支援教育P)」におけるねらいは以下の通りである。</p> <p>①実践校・実践クラスの実践について評価することができる。</p> <p>②1年次の臨床実践研究とリフレクションⅠ・Ⅱの成果から、自らの課題を省察的に検討することができる。</p> <p>③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、実践と関連づけて検討することができる。</p> <p>④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の方向性や内容を検討することができる。</p> <p>本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。</p>	<p>共同</p>

臨床実践研究とリフレクションⅣ (特別支援教育高度化P)	<p>「臨床実践研究とリフレクション(特別支援教育P)」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、実践的指導力と家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。</p> <p>2年次後期「臨床実践研究とリフレクションⅣ(特別支援教育P)」におけるねらいは以下の通りである。</p> <p>①これまでの実践全体について検討し、まとめることができる。</p> <p>②臨床実践研究とリフレクションⅢの成果から、自らの実践を振り返ることができる。</p> <p>③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、課題と関連づけて検討することができる。</p> <p>④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の成果と課題をまとめることができる。</p> <p>本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。</p>	共同
高度教職開発コース メンタリングの理論と実践	<p>本授業は、高度教職開発コースの院生を対象としたリフレクションの入門的な演習である。この演習を通して、自らの実践を省察する手法等を体得するとともに、他者の実践の省察をサポートする力量を高めることを目的とし、メンターとして同僚をささえることができるようになることをねらいとする。まず、講義によりメンタリングの理論を学び、毎回の授業テーマについて、院生がそれぞれの経験を語り合いながら適切なメンタリングの方法を共有する。また、教育学部で実施しているリフレクション演習ないし教育実習のリフレクションのメンター的な役割を担うこともある。</p>	共同
高度実践研究とリフレクションⅠ	<p>この授業では、理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的に捉えるとともに、校内組織の校務分掌、学年会、教科部会等のチームの課題を主体的に解決する力を養うことを目的とする。授業は原則として担当教員との個別指導により展開する。具体的内容としては、①2年間で追究する自らの課題を明確化する、②他の授業での成果に基づき自らの課題を検討する、③自らの課題について文献や情報から検討する、などである。担当教員とのディスカッションによりこれらの活動を進め、課題追究にあたる。</p>	共同
高度実践研究とリフレクションⅡ	<p>この授業では、①実践校・実践クラスの実態を把握・分析すること、②他の授業での成果に基づき自らの課題を省察的に検討すること、③自らの課題について文献や情報から検討することを目的とする。授業は、原則として担当教員との個別指導により展開し、授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、これらを担当教員とディスカッションすることにより課題追究にあたる。</p>	共同

高度実践研究とリフレクションⅢ	この授業では、①実践校・実践クラスの変化に伴う実態を把握・分析すること、②他の授業での成果に基づき、自らの課題を省察的に検討すること、③自らの課題について文献や情報から検討すること、④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の方向性や内容を検討することを目的とする。授業は、原則として担当教員との個別指導により展開し、授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、担当教員とのディスカッションにより考察を深め課題追究にあたる。	共同
高度実践研究とリフレクションⅣ	この授業では、①実践による変化を把握・分析すること、②他の授業での成果に基づき自らの実践を振り返ること、③自らの課題について文献や情報から検討すること、④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の成果と課題をまとめることを目的とする。授業は、原則として担当教員との個別指導により展開し、授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、担当教員とのディスカッションにより考察を深め課題追究にあたる。	共同
高度実践研究とリフレクションⅠ (特別支援教育高度化P)	高度実践研究とリフレクション(特別支援教育P)」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、校内組織の校務分掌や家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。 1年次前期「高度実践研究とリフレクションⅠ(特別支援教育P)」におけるねらいは以下の通りである。 ①2年間で追究する自らの課題を明確化することができる。 ②特別支援教育Pの各授業に基づき、自らの課題を省察的に検討することができる。 ③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、課題と関連づけて検討することができる。 本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。	共同
高度実践研究とリフレクションⅡ (特別支援教育高度化P)	「高度実践研究とリフレクション(特別支援教育P)」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、校内組織の校務分掌や家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。 1年次後期「高度実践研究とリフレクションⅡ(特別支援教育P)」におけるねらいは以下の通りである。 ①課題追究に先立ち、実践校・実践クラスの実態を把握・分析することができる。 ②高度実践研究とリフレクションⅠを基に、自らの課題を省察的に検討することができる。 ③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、実践と関連づけて検討することができる。 本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。	共同

		<p>「高度実践研究とリフレクション（特別支援教育P）」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、校内組織の校務分掌や家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。</p> <p>2年次前期「高度実践研究とリフレクションⅢ（特別支援教育P）」におけるねらいは以下の通りである。</p> <p>①実践校・実践クラスの実践について評価することができる。</p> <p>②1年次の高度実践研究とリフレクションⅠ・Ⅱの成果から、自らの課題を省察的に検討することができる。</p> <p>③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、実践と関連づけて検討することができる。</p> <p>④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の方向性や内容を検討することができる。</p> <p>本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。</p>	共同
		<p>「高度実践研究とリフレクション（特別支援教育P）」では、特別なニーズのある子どもへの教育に関する理論と実践とを往還させることにより自らの課題を省察的にとらえるとともに、校内組織の校務分掌や家庭や関係機関との連携など、子どもの多様なニーズに対応する力を養うことを目的とする。</p> <p>2年次後期「高度実践研究とリフレクションⅣ（特別支援教育P）」におけるねらいは以下の通りである。</p> <p>①これまでの実践全体について検討し、まとめることができる。</p> <p>②高度実践研究とリフレクションⅢの成果から、自らの実践を振り返ることができる。</p> <p>③自らの課題に関連する文献や情報を収集し、課題と関連づけて検討することができる。</p> <p>④実践結果や振り返りに基づき、課題探究の成果と課題をまとめることができる。</p> <p>本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。</p>	共同
選択科目	教育課題探究プログラム	<p>学校マネジメント</p> <p>本授業では、学級経営及び学校経営に関わるマネジメントについての専門的知識を習得し、実践的な演習を通して、学校経営能力の力量を高めるとともに、マネジメント研修を自ら企画し運営する力量を身につけることをねらいとする。学校マネジメントの実践的な演習を通して、学校経営能力の力量を高める。また、教員研修センターとの連携を生かした高度な演習を組み込むとともに、組織マネジメントの先進事例をフィールドワークにより具体的に理解する。</p>	講義演習 22時間 8時間 共同
		<p>校内研究の企画・運営</p> <p>本授業は、校内研究の企画・運営に実際に携わる演習形式で行う。まず、学校の実態及び先行研究等も踏まえて、教科等の実践的な指導方法、生徒指導・教育相談、学級経営・学校経営のいずれかの領域に特化した研究課題を設定する。次に、この課題の解決を校内研修会の企画、実施、分析を通じて試みる。この演習を通して、課題を設定し、解決するための構想を立て、実践し、その結果や過程を省察し、よりよく改めたり新たな課題を見いだしたりすること、及び校内研究を評価・改善することができるようになることをねらっている。</p>	共同

通常学級における特別支援教育	本授業は、校内研究の企画・運営に実際に携わる演習形式で行う。まず、学校の実態及び先行研究等も踏まえて、教科等の実践的な指導方法、生徒指導・教育相談、学級経営・学校経営のいずれかの領域に特化した研究課題を設定する。次に、この課題の解決を校内研修会の企画、実施、分析を通じて試みる。この演習を通して、課題を設定し、解決するための構想を立て、実践し、その結果や過程を省察し、よりよく改めたり新たな課題を見いだしたりすること、及び校内研究を評価・改善することができるようになることをねらっている。	共同
へき地・小規模校における教育実践	へき地・小規模校独自の教育課題について、事例研究を通して実践的な演習を行う。地域の関係者と協働して学び合う場を設け、適切な状況把握にもとづいた地域理解と今後の方向性に対するビジョンを共有した上で、少子・人口減少社会に対応した教育実践を具体的に創造する演習とする。地域に開かれた学習会も演習の一環として企画・運営する。	共同
学校におけるICT活用	学校におけるICT活用教育を推進していくための実践的演習を行う。本授業は、附属学校参観をふまえて、①ICT活用授業の設計、②ICT活用の効果、③ICT活用による個々の児童生徒の変容及び学習集団としての学級の変容、について小グループでの演習形式で検討する。また、最新のツールの効果的利用法、ネット環境で配慮すべき情報セキュリティについても扱う。	共同
海外学校臨床実習	学校教育を取り巻く環境や授業のあり方、教員の役割など、国や地域によりそれぞれ異なる教育実践を、実際に異文化のフィールドを訪れ、教育活動に参画することを通して具体的に理解することを目的とする。渡航先では複数校を訪問して授業参観をするとともに、授業体験実習にも参画する。原則として英語を用いて小学生を対象とする授業を担当することになる。帰国後は「海外学校臨床実習報告会」を開き、自分の学びを成果発表としてプレゼンテーションするとともに、報告書に成果をまとめる。	隔年共同
教育課題特別演習Ⅰ	本授業のねらいは、研究成果の社会への還元方法を身に付けるために、教育分野の各種研究会に参加し、研究成果の公表に必要な基礎的な知識やスキル、マナー等を習得することと、専門家コミュニティに参画することの意義が説明できるようになることである。研究会への参加を通じて実践者及び研究者のコミュニティに参画し、「学び続ける教師」としての拠り所となるフィールドを開拓する。	共同
教育課題特別演習Ⅱ	本授業のねらいは、研究課題に適した教育分野の各種研究会に参加し、口頭・ポスター発表を経験することにより、研究成果の社会への還元方法を身に付けることであり、発表に必要な基礎的な知識やスキル、マナー等を習得し、専門家コミュニティに参画することの意義を自己課題・学校課題と関連付けて説明できるようになることである。実践者及び研究者のコミュニティに参画し、「学び続ける教師」としての拠り所となるフィールドを開拓する。	共同
学校における学習の心理過程	学校で扱われるあらゆる学習領域を対象に、児童・生徒の学習過程に関する教育心理学を基盤として、学校現場の課題に即した実践ができるようになる。 はじめに、教育心理学における問題設定の枠組みを講義する。次に、その枠組みに基づいて受講生が自身の教育実践の事例を報告する。それらの報告に対して、優れている点・問題点・改善点等の抽出、新たな授業・教材開発の方法等を議論する。	講義 5時間 演習 10時間

学校における防災教育	<p>学校防災に関する、関連諸科学の基本原則、事例、社会的動向、教材開発、授業実践について学び、学校現場の課題に即した実践ができるようになる。</p> <p>学校防災について、自然と人間の両面から基礎的知見を提供し、防災教育の実践方法を議論する。各専門教員からの講義、受講者からの問題提起、教員と受講者による議論により行う。</p>	<p>講義 8時間 演習 7時間 共同</p>
学校における体験活動	<p>体験活動の教育的意義を理解し、実践事例や先行研究を踏まえ、対象に応じた教育課題の設定および効果的な体験活動を取り入れた授業展開を計画することができる。</p> <p>体験活動について、現代的な意義や必要性、学習指導要領における取り扱いについて理解を深めるとともに、体験活動の実践事例や調査研究等から成果と課題を明らかにする。</p> <p>また、小学校（幼稚園）から高校までの発達段階に応じた、効果的な体験活動実施のための留意点を整理し、協力校や所属校の児童・生徒の状況や教育目標に対応した体験活動の試案を作成し、運営や評価についても理解する。</p>	<p>共同</p>
学校における多文化教育	<p>国内で増加しつつある外国籍児童に対応できる教員の資質・能力を育成する。初等・中等教育において外国籍児童生徒が直面する様々な問題を解決するための知識・能力を育成するとともに、多文化化していく学校に対応できる教員の養成を目的とする。</p> <p>外国籍児童をとりまく国内・地域の現状、外国籍児童生徒のアイデンティティ、言語指導、教科指導について学ぶとともに、多文化化していく学校に対応する教員に必要な資質・能力について学ぶ。また実際に現場を参観し外国籍児童生徒の教育の実践方法について学ぶ。</p>	
持続可能な社会づくりと教育	<p>持続可能な社会づくりに関連するキャリアや持続可能な開発のための教育（ESD）等の基礎的概念を理解し、教育実践に位置付ける視点を獲得することをねらいとする。</p> <p>キャリアやESDに関連する諸概念について演習形式で討議する。さらに、学校教育における実践事例の検討をした後、カリキュラムを構想し発表・検討する。</p>	<p>共同</p>
学校教育と市民性	<p>1. 道徳性・市民性について学校教育との関わりのなかで多面的な検討を加えることができる。</p> <p>2. 社会における教育の課題に対し自分なりに応答を模索することができる。</p> <p>3. 資料を手がかりとしながら市民性・道徳性について学校教育と関連させて討議・考察することができる。</p> <p>本授業においては、個別の教科を超えて学校活動全体を通して育まれるべき道徳性・市民性について多面的な検討を加えることを通し、複雑化・流動化・多様化する社会における学校教育をめぐる課題への応答の可能性を探る。その際、生き方としての民主主義・倫理・道徳といった観点についての資料を手がかりとし、討議・考察をすすめる。</p>	<p>共同</p>
学校における異文化間コミュニケーション教育・多様性対応教育	<p>個性や家庭環境も含めた広い意味での「文化の違い」をどう教育で扱うかを扱う。子供たちが年齢に応じて、家庭や地域ではぐくんできた個性や文化をお互いに理解し、尊重できる教育の在り方を見つめる授業とする。</p>	

教科授業力高度化プログラム	<p>教科横断教育研究論</p>	<p>受講生の課題・関心に基づき、教育研究を実践的に進めるため、個々の教科の知識だけではなく、人文系領域、社会科学系領域、自然科学系領域といった教科を横断した領域を設定し、各領域の教育研究の研究論を横断的に学んでいく。これにより特定の教科のみの視点、視野を拡大し、学校教育の現場の実践的課題に即しながらもより視野の広い授業づくりや教材開発ができるようになる。以上を通し、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する高度な授業力を身につけるとともに、(他者と協働しつつ)教科横断的なカリキュラムの開発や新たな授業方法をデザインし、改善していくことができる教員となる。毎回の授業は複数の教科を横断した教科教育と教科専門の教員が共同で実施し、専任教員が授業全体のコーディネートを行う。</p> <p>(1三崎隆, 4酒井英樹, 5茅野公穂, 23宮崎樹夫, 24天谷健一, 26西正明, 27村松浩幸, 31齊藤忠彦, 32中島卓郎, 35岩田靖, 44八木雄一郎, 45篠崎正典, 47小松孝太郎, 48昆万佑子, 49井田秀行, 50伊藤冬樹, 51神原浩, 52坂口雅彦, 53竹下欣宏, 55福田典子, 56小野貴史, 57田島達也, 58吉田治人, 59桐原礼, 60小野文子, 62藤田育郎, 73松澤泰道, 74鄭暁静, 75大島賢一)</p>	共同
	<p>教科横断内容研究基礎</p>	<p>教科の授業力の基盤となる関連学問について、個々の教科の知識だけではなく、人文系領域、社会科学系領域、自然科学系領域といった教科を横断した領域を設定し、各領域の教育研究の方法論を横断的に学んでいく。これにより特定の教科のみの視点、視野を拡大し、子どもたちが情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりするなど、その「深い学び」の実現を支える高度な教科授業力を身につける。受講生は各自の課題・関心に基づき、自ら探究的に授業研究・教材開発(教育実践開発研究)を行うため、関連する学問領域における知識の全体像(つながり・構造)を把握すると共に、当該領域のディシプリン(問い・探究・思考の方法)についての深い理解を養う。毎回の授業は複数の教科を横断した教科教育と教科専門の教員が共同で実施し、専任教員が授業全体のコーディネートを行う。</p> <p>(3西一夫, 5茅野公穂, 20関良徳, 23宮崎樹夫, 24天谷健一, 25佐藤運海, 31齊藤忠彦, 32中島卓郎, 41金子史彦, 42田中江扶, 47小松孝太郎, 48昆万佑子, 49井田秀行, 50伊藤冬樹, 51神原浩, 52坂口雅彦, 53竹下欣宏, 54川久保英樹, 55福田典子, 56小野貴史, 57田島達也, 58吉田治人, 59桐原礼, 60小野文子, 63渡辺敏明, 73松澤泰道, 74鄭暁静, 75大島賢一)</p>	共同
	<p>教育調査方法基礎</p>	<p>受講生の課題・関心に基づき、教育実践開発研究を行うため、関連領域における情報収集、文献調査、データ分析法について学ぶ。関連する領域での、具体的な調査を経験することで、以下のことを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけ、課題の周辺にある先行研究の実態を調べ、課題を明確化することができる。 ・当該領域における調査法の全体像を知る(テーマに合わせ適切に選択できる)。 ・自らの研究課題にアプローチするための適切な研究方法について理解し、活用することができる。 ・得られたデータ等を分析し、分析結果を的確にまとめることができる。 <p>受講生の課題・関心に基づき、ゼミ・教員集団を組織するとともに、調査(情報・データ収集)の方法・集めた情報やデータの分析方法(統計処理の方法)等について演習形式で学ぶ。具体的な演習の進め方は受講生の研究対象・領域、問いや採用する調査方法により異なるが、調査法の各種テキスト、学会の論文投稿規定とそのガイド、論文誌に掲載されている論文を材料にしつつ調査法及びその活用法を学ぶ。また、実際に自ら課題を設定し、情報を収集し、分析し、レポートを作成する一連の過程を体験し、そのプロセス及び最終結果について教員や参加する他の学生との討論を通して修得・深化させていく。毎回の授業は複数の教科を横断した教科教育と教科専門の教員が共同で実施し、専任教員が授業全体のコーディネートを行う。</p> <p>(1三崎隆, 5茅野公穂, 22松本康, 23宮崎樹夫, 26西正明, 27村松浩幸, 31齊藤忠彦, 32中島卓郎, 38徳井厚子, 47小松孝太郎, 48昆万佑子, 55福田典子, 56小野貴史, 57田島達也, 58吉田治人, 59桐原礼, 69瀧直也, 70青山拓実, 73松澤泰道, 74鄭暁静, 75大島賢一)</p>	共同

国語科授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、国語科教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における国語科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、国語科教育学・日本文学・日本語学・書写書道等の専門性に裏付けられた国語科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p>	共同
国語科教材開発演習	<p>国語科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、国語科教育学・日本文学・日本語学・書写書道等の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用した教材等についての知見を取り込みながら、国語科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	共同
国語科授業分析演習	<p>国語科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、国語科教育学の専門性を元に、国語科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p>	共同
国語科指導案構築演習	<p>国語科教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、国語科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、国語科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実践に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p>	共同
国語科授業方法研究	<p>国語科教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。</p> <p>演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。</p>	共同

社会科授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、社会科教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における社会科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、社会科教育学の専門性に裏付けられた社会科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基いて設定する。</p>	共同
社会科教材開発演習	<p>社会科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、社会科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に關わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、社会科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	共同
社会科授業分析演習	<p>社会科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、社会科教育学の専門性を元に、社会科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p>	共同
社会科指導案構築演習	<p>社会科教育学および関連する社会諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、社会科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨場的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、社会科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実践に基いて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p>	共同
社会科授業方法研究	<p>社会科教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。</p> <p>演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。</p>	共同

算数・数学科授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、算数・数学科教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における算数・数学科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、算数・数学科教育学の専門性に裏付けられた算数・数学科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p> <p>担当教員が中学校教諭あるいは高等学校教諭の実務経験を活かして講義を行う</p>	共同
算数・数学科教材開発演習	<p>算数・数学科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、算数・数学科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、算数・数学科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p> <p>担当教員が中学校教諭あるいは高等学校教諭の実務経験を活かして講義を行う。</p>	共同
算数・数学科授業分析演習	<p>算数・数学科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、算数・数学科教育学の専門性を元に、算数・数学科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p> <p>担当教員が中学校教諭あるいは高等学校教諭の実務経験を活かして講義を行う</p>	共同
算数・数学科指導案構築演習	<p>算数・数学科教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、算数・数学科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、算数・数学科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p> <p>担当教員が中学校教諭あるいは高等学校教諭の実務経験を活かして講義を行う。</p>	共同

算数・数学科授業方法研究	算数・数学科教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。 演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。 担当教員が中学校教諭あるいは高等学校教諭の実務経験を活かして講義を行う	共同
理科授業内容研究	先行研究等を踏まえて、理科教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における理科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。 演習形式で、理科教育学の専門性に裏付けられた理科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。 初等・中等教育の目的に絡めながら主として理科の授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。	共同
理科教材開発演習	理科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。 演習形式で、理科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、理科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。 教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。	共同
理科授業分析演習	理科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。 演習形式で、理科教育学の専門性を基に、理科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の理科教育の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。	共同
理科指導案構築演習	理科教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、理科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。 演習方式で、理科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、理科教育の先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。 担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。	共同

理科授業方法研究	<p>理科教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、理科教育の内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。</p> <p>演習方式で、理科教育の授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて理科教育の内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。</p>	
音楽科授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、音楽教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における音楽科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、音楽教育学の専門性に裏付けられた音楽科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p>	共同
音楽科教材開発演習	<p>音楽科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、音楽教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、音楽科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	共同
音楽科授業分析演習	<p>音楽科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、音楽教育学の専門性を元に、音楽科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p>	共同
音楽科指導案構築演習	<p>音楽教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、音楽科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、音楽教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p>	共同

音楽科授業方法研究	音楽教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。 演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。	共同
図画工作・美術科授業内容研究	先行研究等を踏まえて、美術教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における図画工作・美術教育の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。 演習形式で、美術教育学の専門性に裏付けられた図画工作・美術教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。 初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。	共同
図画工作・美術科教材開発演習	図画工作・美術科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。 演習形式で、図画工作・美術科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、図画工作・美術科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。 教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。	共同
図画工作・美術科授業分析演習	図画工作・美術科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。 演習形式で、美術科教育学の専門性を元に、図画工作・美術科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。	共同
図画工作・美術科指導案構築演習	図画工作・美術科教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、図画工作・美術科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。 演習方式で、図画工作・美術科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。	共同

<p>図画工作・美術科授業方法研究</p>	<p>美術教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、表現・鑑賞と関わる題材開発・学習指導案構築などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析ができるようにする。</p> <p>演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。</p>	
<p>保健体育科授業内容研究</p>	<p>先行研究等を踏まえて、体育科・保健体育科教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における体育の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、体育科教育学の専門性に裏付けられた体育科・保健体育科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p>	<p>共同</p>
<p>保健体育科教材開発演習</p>	<p>保健体育科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、保健体育科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、保健体育科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	<p>共同</p>
<p>保健体育科授業分析演習</p>	<p>保健体育科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、体育科教育学の専門性を元に、保健体育科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p>	<p>共同</p>
<p>保健体育科指導案構築演習</p>	<p>保健体育科教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、保健体育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、保健体育科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表を行い、質疑応答・討議する。</p>	<p>共同</p>

保健体育科授業方法研究	<p>体育科教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。</p> <p>演習方式で、体育授業実践の方法・体育授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら、体育授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。</p>	共同
ものづくり授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、ものづくりや技術教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階におけるものづくりや技術の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、技術教育学の専門性に裏付けられたものづくりや技術教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p>	共同
ものづくり教材開発演習	<p>ものづくりや技術教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、技術教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、ものづくりや技術教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	共同
ものづくり授業分析演習	<p>ものづくりや技術教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、技術教育学の専門性を元に、ものづくりや技術教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p>	
ものづくり指導案構築演習	<p>技術教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、ものづくりや技術教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、技術教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p>	

ものづくり授業方法研究	<p>技術教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・指導案構築などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。</p> <p>演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、ものづくり・技術教育の実践に貢献する知見を導出する。</p>	共同
家庭科授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、家庭科教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における家庭科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、家庭科教育学の専門性に裏付けられた家庭科教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p>	共同
家庭科教材開発演習	<p>家庭科教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。演習形式で、家庭科教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、家庭科教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	共同
家庭科授業分析演習	<p>家庭科教育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、家庭科教育学の専門性をもとに、家庭科教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業づくりに繋げていく。</p>	
家庭科指導案構築演習	<p>家庭科教育学および関連する諸科学の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、家庭科教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨床的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、家庭科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p>	

家庭科授業方法研究	<p>家庭科教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。</p> <p>演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。</p>	共同
英語科授業内容研究	<p>先行研究等を踏まえて、英語教育学および関連する諸学問（英語学、英語文学）の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における英語科の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。</p> <p>演習形式で、英語教育学の専門性に裏付けられた英語教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。</p> <p>初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。</p>	共同
英語科教材開発演習	<p>英語教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>演習形式で、英語教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、英語教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。</p>	共同
英語科授業分析演習	<p>英語育の実践・授業記録の分析方法について理解し、実践・授業の記録の作成および記録の分析ができる。</p> <p>演習形式で、英語教育学の専門性を元に、英語教育の実践や授業の記録・分析方法について学ぶ。また、各自の課題に対応した実践・授業記録を実際に分析・検討し、授業作りにつなげていく。</p>	共同
英語科指導案構築演習	<p>英語教育学および関連する諸科学（英語学や英語文学）の学術的理論と臨床経験から習得した情報収集・分析能力を基に、英語教育における学習指導案構築に関わる研究課題を、先行研究等を踏まえて臨場的な授業実践の課題として自ら位置付けることができる。</p> <p>演習方式で、英語教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。</p>	共同

英語科授業方法研究	英語教育学に関連する諸科学の理論や習得した情報収集・分析能力を基に、初等・中等教育における授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題を設定し、内容研究・教材開発・学習指導案構築、実践分析などの諸要素を統合しながら、その研究課題を解決するための構想を立てることができるようにする。 演習方式で、授業実践の方法・授業評価に関わる研究課題解決のための構想を立てるとともに、各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら授業実践に向けて内容研究・教材開発・学習指導案構築および実践分析をする。	共同
健康環境授業内容研究	先行研究等を踏まえて、教科横断および教科領域横断的にかかわる諸学問の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階における健康環境教育の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。 演習形式で、専門性に裏付けられた健康環境教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。 初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。	共同
芸術鑑賞授業内容研究	先行研究等を踏まえて、音楽、図画工作・美術、国語教育学および関連する諸学問の専門性に裏付けながら（音楽芸術、造形芸術、言語芸術、映像芸術）、初等・中等教育段階における音楽・美術・国語の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。 演習形式で、教育学の専門性に裏付けられた音楽、図画工作・美術、国語教育の授業内容に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。 初等・中等教育の目的に絡めながら主として授業内容に関する研究課題を、先行研究に位置付けつつ、教科の背景としての学問の専門性に基づいて設定する。	共同
芸術鑑賞教材開発演習	音楽、図画工作・美術、国語教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。 演習形式で、音楽、図画工作・美術、国語教育学の専門性に裏付けられた教材・教具開発と教材活用に関わる各自の研究課題についての発表を中心におこない、質疑応答・討議する。また、最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、音楽、図画工作・美術、国語教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。 教材・教具の役割や価値を把握して、授業の目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、演習を通して検討する。そして、教材・教具の開発・改良をおこない、これらの活用を意識した指導計画を作成し、教材・教具の価値付けと教材・教具を活かした授業構成等について検討する。	共同
STEM授業内容研究	先行研究等を踏まえて、STEM教育および関連する諸領域の専門性に裏付けながら、初等・中等教育段階におけるSTEM教育の授業内容に関わる研究課題を、自ら設定することができるようにする。 演習形式で、STEM教育の背景としての専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業内容に係わる各自の研究課題についての発表を中心と据え、質疑・応答、討議する。 理科と数学、技術、ICTの連携した教育の推進に向けた目的・目標、カリキュラム、単元構成・実践内容の企画、検討、実践と評価について議論する。担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。	共同

STEM教材開発演習	STEM教育の授業で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材の活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。 演習形式で、STEM教育の背景としての専門性に裏付けられた初等・中等教育における教材開発に係わる各自の研究課題についての発表を中心に据え、質疑・応答、討議する。また、最新のSTEM教育の教材開発状況等についての知見を取り上げながら初等・中等教育におけるSTEM教材観の形成と開発を行う。 理科と数学、技術、ICTの連携した教育の推進に向けた教材開発の概要と実際について具体的な事例を基に議論する。担当教員が中学校での実務経験を活かして講義を行います。	共同
教科課題特別研究Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題・研究領域における実践研究の遂行と論文執筆体験（自ら問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセスの経験）を通して、科学的思考と客観的事実に裏付けられた教育開発（カリキュラムや授業方法を自らデザイン、検証、改善）ができるようになる。 ・同僚や研究者に向けて書く・報告する、コメントを受けて応答する、議論することを通し、信念や心情ではなく、検証可能な事実にもとづいて、根拠のある発言をし、知見を互いに高めあう（かみ合う）議論ができるようになる。 ・以上の2点を通し、校内研究の中心となると共に、地域の研究会等でも活躍し、地域の教育研究全体の底上げに寄与できるようになる。 毎回の授業は教科教育と教科専門の教員が共同で実施し、専任教員が授業全体のコーディネートをやる。 (1三崎隆, 3西一夫, 4酒井英樹, 5茅野公穂, 19小林比出代, 20関良徳, 21廣内大助, 22松本康, 23宮崎樹夫, 24天谷健一, 25佐藤運海, 26西正明, 27村松浩幸, 29三野たまき, 30山岸明浩, 31齊藤忠彦, 32中島卓郎, 35岩田靖, 36寺沢宏次, 41金子史彦, 42田中江扶, 43友田義行, 44八木雄一郎, 45篠崎正典, 46藤崎聖也, 47小松孝太郎, 48昆万佑子, 49井田秀行, 50伊藤冬樹, 51神原浩, 52坂口雅彦, 53竹下欣宏, 54川久保英樹, 55福田典子, 56小野貴史, 57田島達也, 58吉田治人, 59桐原礼, 60小野文子, 61友川幸, 62藤田育郎, 63渡辺敏明, 69瀧直也, 70青山拓実, 71木村容子, 72志村佳名子, 73松澤泰道, 74鄭曉静, 75大島賢一)	共同
教科課題特別研究Ⅱ	受講生は各自の関心及び教科領域上の課題に基づき、テーマを設定（問いを立てる）し、研究テーマに造詣の深い教員（複数の）の支援を受けながら、教材分析、情報収集、文献解釈、調査方法・データ分析法を駆使しながら研究・開発を行い、最終的には実践研究論文としてまとめる。資料を比較して利用したり、一貫した議論を組み立てたり、洗練された作品を提示することで、未知の知識を作り出していく学習。研究室内での討議の他に、合同での論文構想発表会や報告会を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。なお、本演習は実習ともリンクした統合的科目である。毎回の授業は教科教育と教科専門の教員が共同で実施し、専任教員が授業全体のコーディネートをやる。 (1三崎隆, 3西一夫, 4酒井英樹, 5茅野公穂, 19小林比出代, 20関良徳, 21廣内大助, 22松本康, 23宮崎樹夫, 24天谷健一, 25佐藤運海, 26西正明, 27村松浩幸, 29三野たまき, 30山岸明浩, 31齊藤忠彦, 32中島卓郎, 35岩田靖, 36寺沢宏次, 41金子史彦, 42田中江扶, 43友田義行, 44八木雄一郎, 45篠崎正典, 46藤崎聖也, 47小松孝太郎, 48昆万佑子, 49井田秀行, 50伊藤冬樹, 51神原浩, 52坂口雅彦, 53竹下欣宏, 54川久保英樹, 55福田典子, 56小野貴史, 57田島達也, 58吉田治人, 59桐原礼, 60小野文子, 61友川幸, 62藤田育郎, 63渡辺敏明, 69瀧直也, 70青山拓実, 71木村容子, 72志村佳名子, 73松澤泰道, 74鄭曉静, 75大島賢一)	共同

特別支援教育高度化プログラム	知的障害児の理解と支援	知的障害児に関する時事的問題を取り上げ、制度、教育行政、教員による教育対応、児童生徒の状況等の視点から多面的な理解を図り、総合的な問題解決について理解する。 1) わが国の知的障害教育に関わる教育制度、教育法規について 2) 学校現場の教育対応について（教員組織、教育課程、指導方法・内容等）について 3) 児童生徒の状況について（障害の特性、学習上の問題点等）について 4) 総合的な観点からの教育対応について	
	肢体不自由児の理解と支援	・特別支援教育専修免許状（肢体不自由領域）の取得および当該領域の専門性を高めるための知識と支援方法の修得を目指す。 ・先行研究等を踏まえて、肢体不自由に関連する諸領域の専門性に裏付けながら、肢体不自由児の発達援助と自己実現に関わる研究課題を自ら設定することができるようにする。 ・授業は講義、および、演習形式で行う。 ・講義とディスカッションから肢体不自由の原因疾患に関する専門知識を習得し、臨床像および制約要因について理解する。 ・肢体不自由児の発達援助のための科学的アプローチについて、先行研究に位置付けつつ、その視点と方法を学ぶ。また、肢体不自由児の発達援助に関する最新の知見について、受講生が文献を調査し発表する。	講義 9時間 演習 6時間
	病弱児の理解と支援	・特別支援教育専修免許状（病弱領域）の取得および当該領域の専門性を高めるための知識と支援方法の修得を目指す。 ・先行研究等を踏まえて、病弱教育に関連する諸領域の専門性に裏付けながら、病弱児の教育や心理支援に関わる研究課題を自ら設定することができるようにする。 病弱教育の対象は医療や社会背景の変化と共に変遷してきている。また近年、小児医療のセンター化が進められる一方で、地域では混合病棟が増加し、入院児の環境が多様となっている。これらの現状を深く理解し、多様な病弱教育対象児の教育保障と自己実現について考える。 ・授業は、講義および演習形式で行う。 ・講義とディスカッションから、病弱児の様々な制約要因と支援ニーズについて理解する。 ・高度な医療ケアを要する超重症児の現状と教育上の課題について理解し、発達援助のための科学的アプローチや多職種連携による連携支援について学ぶ。 ・病弱児の教育や心理支援に関する最新の知見について、受講生が文献を調査し発表する。	講義 9時間 演習 6時間 共同
	発達障害児の理解と支援	発達障害のある子どもへの教育と支援を実践していく上で必要となる、当該領域の研究成果について深く学び、それらの成果を学校教育の現場の実践的課題に応用する方法を検討することで、授業改善や教材開発、発達障害に関する校内コンサルテーションができるようになる。 受講生の実践的な課題や今日的な課題についてテーマを決め、そのテーマに該当する研究成果について調べ、それをもとに講義・演習を行う。該当の研究成果を学校教育の現場の実践的課題に応用するための授業改善、教材開発、校内コンサルテーションの方法と評価を学ぶ。	

<p>情緒障害・行動問題の理解と支援</p>	<p>本授業は、行動や情緒の面に困難をもつ児童生徒の特性について理解でき、教育的ニーズに応じた支援方法を明示することができるようになることを目指す。具体的には、以下の3点を授業のねらいとする。</p> <p>①情緒障害・行動問題のある児童生徒の特性について、理解することができる。</p> <p>②記録やアセスメントを通して、行動問題の理由や維持要因を分析し、支援策を提案することができる。</p> <p>③校内リソースの活用、専門機関との連携について、その方法と課題を説明することができる。</p> <p>本授業は講義と演習により展開する。行動や情緒の面に困難を持つ、主として場面緘黙の児童生徒の心理的・行動的特性、および、周囲との相互作用による困難の維持について、ワークシートや支援教材を通して実践的に理解するとともにし、教育現場での実用を想定した具体的な支援方法の検討を行う。</p>	
<p>特別なニーズのある子どもの自立活動</p>	<p>知的障害児の自立活動に必要な教育課程に関する専門的知識を習得するとともに、個別の指導計画の作成における取り扱いについて理解する。</p> <p>自立活動及び教育課程について説明し、知的障害児童生徒の発達の程度、障害の状況に合わせた教育課程編成のあり方について講義する。また、個別の指導計画と教育課程との関係を理解した上で、自立活動の実践に必要な実態把握、計画作成、実践、評価のあり方について講義する。</p>	<p>共同</p>
<p>特別なニーズのある子どもの教科研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主として知的障害のある子どもの深い学びとしての教科的なもの見方を実現するための授業づくりや教材開発を行う基盤を形成する。 ・個別の指導計画の作成や特別支援学校・特別支援学級の教育課程を編成していく上で必要な、関連諸領域の知識と理論、評価の方法、最近の研究動向について深く学ぶ。 ・事例検討や授業分析を通して、教育開発・授業研究の方法を学ぶことで、学校教育の現場の実践的課題に即した授業づくりや教材開発ができるようになる。 ・以上を通し、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する高度な授業力を身につけるとともに、他者と協働しつつカリキュラムの開発や新たな授業方法をデザインし、改善していくことができる教員となる。 <p>・主として知的障害のある子どもの教育を中心に、特別支援教育の近年の動向、および、学習指導要領の理解と活用のための講義・演習を行う。関連して、授業づくりにおいて必要な、関連諸領域の基礎概念、研究成果、最近の動向について解説する。</p> <p>・事例の個別指導や生活単元学習等のVTRを分析し、特別なニーズのある子どもの深い学びを実現する単元設定と展開、教材開発および支援の視点と方法、カリキュラム開発について討議を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>特別支援教育コーディネーターの役割と支援</p>	<p>本授業では、学校現場で特別支援教育コーディネーターとして支援の中核を担うために必要な理論と技法を習得することをめざす。具体的には、以下の4点を授業のねらいとする。</p> <p>①学校心理学およびチーム援助の視点からコーディネーターの特徴と役割を理解する</p> <p>②行動観察や知能検査等により子どもの実態を把握・分析する</p> <p>③コンサルティやチームの実態を踏まえコンサルテーションのあり方を検討する</p> <p>④インクルーシブ教育・合理的配慮について理解する</p> <p>本授業では、講義・演習・実践を通して基本的な知識と技能の習得を図る。</p> <p>講義により基本的な知識を理解し、演習で技能の習得を図り、実践で学校現場における知識と技能の活用の可能性と課題を明らかにする。</p> <p>担当教員が、特別支援学校・教育相談の実務経験を活かして講義・演習を行います。</p>	

通常学級における特別支援教育	<p>本授業では、いわゆる通常学級における児童生徒のニーズに応じた適切な支援が展開できるようになることを目指している。具体的には、以下の4点をねらいとする。</p> <p>①児童生徒の問題を個人要因と環境要因から検討することができる。</p> <p>②通常学級の特徴を踏まえ児童生徒の実態に応じた支援内容・方法を検討することができる。</p> <p>③通常学級における特別支援教育のポイントと、現状を踏まえた課題について検討することができる。</p> <p>本授業では、インクルーシブ教育システムの理解と、それを構築するための具体的方法の学習を、小グループでの演習と学校参観により展開する。</p> <p>小グループの演習においては、実際の事例を用いて、子どもの問題理解の視点を学習し、子どもの実態や学級の特徴に応じた支援内容・方法を検討する。</p> <p>学校参観においては、通常学級における特別支援教育に関して、先進的な取組をしている学校を参観し、演習で学習した問題理解と支援のポイントについて、再検討を図る。</p>	共同
特別支援教育教材開発研究	<p>特別なニーズのある子どもの指導で用いる教材や教具の意義と機能を知ると共に、効果的な教材・教具の開発や活用方法について理解し、教材・教具を活かした指導計画や学習過程を構想することができる。</p> <p>事例を対象とした指導実践およびそのための教材・教具開発を演習および実習形式で行う。</p> <p>特別支援学校に在籍する1事例を対象として、教材・教具開発と教材活用についての研究と発表を行い、質疑応答・討議する。最新の教材開発やICTを活用したデジタル教材等についての知見を取り込みながら、個別の特別なニーズに対応した教育における教材観の形成と具体的な開発をおこなう。</p> <p>教材・教具の役割や価値を把握して、発達目標を達成するためにはどのような教材・教具がよいか、また、教材・教具をどのように活用して児童・生徒の学習を促進するかを、事例の観察参加を含めた演習を通して検討する。その上で、事例の指導目標に基づいた教材・教具の開発と指導計画の作成を行い、指導の実践を行う。</p>	演習 15時間 実習 30時間 共同
特別支援教育課題特別研究 I	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題・研究領域における実践研究の遂行と論文執筆体験（自ら問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセスの経験）を通して、科学的思考と客観的事実に裏付けられた教育開発（カリキュラムや授業方法を自らデザイン、検証、改善）ができるようになる。 ・同僚や研究者に向けて書く・報告する、コメントを受けて応答する、議論することを通し、信念や心情ではなく、検証可能な事実にもとづいて、根拠のある発言をし、知見を互いに高めあう（かみ合う）議論ができるようになる。 ・以上の2点を通し、校内研究の中心となると共に、地域の研究会等でも活躍し、地域の教育研究全体の底上げに寄与できるようになる。 <p>受講生は各自の関心及び特別支援教育領域上の課題に基づき、テーマを設定（問いを立てる）し、研究テーマに造詣の深い教員（複数の）の支援を受けながら、実態把握、教材分析、情報収集、文献解釈、調査方法・データ分析法を駆使しながら研究を行い、最終的に研究論文としてまとめる。資料を比較して利用したり、一貫した議論を組み立てたりすることで、未知の知識を作り出していく学習。研究室での討議の他に、合同での論文構想発表会や報告会を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。</p>	共同

		<p>特別支援教育課題特別研究Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題・研究領域における実践研究の遂行と論文執筆体験（自ら問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセスの経験）を通して、科学的思考と客観的事実に裏付けられた教育開発（カリキュラムや授業方法を自らデザイン、検証、改善）ができるようになる。 ・同僚や研究者に向けて書く・報告する、コメントを受けて応答する、議論することを通して、信念や心情ではなく、検証可能な事実にもとづいて、根拠のある発言をし、知見を互いに高めあう（かみ合う）議論ができるようになる。 ・以上の2点を通し、校内研究の中心となると共に、地域の研究会等でも活躍し、地域の教育研究全体の底上げに寄与できるようになる。 <p>受講生は各自の関心及び特別支援教育領域上の課題に基づき、テーマを設定（問いを立てる）し、研究テーマに造詣の深い教員（複数の）の支援を受けながら、実態把握、教材分析、情報収集、文献解釈、調査方法・データ分析法を駆使しながら研究を行い、最終的に研究論文としてまとめる。資料を比較して利用したり、一貫した議論を組み立てたりすることで、未知の知識を作り出していく学習。研究室での討議の他に、合同での論文構想発表会や報告会を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。</p>	共同	
学校実習	教職基盤形成コース／高度教職開発コース	教育実践実地研究Ⅰ	<p>本実習科目は、5月～7月にかけての事前指導を経て、9月～12月にかけて、週1回8時間の実習を15週にわたり実施する。実習生は、配属校で授業を行うとともに、学校行事、校内研究会や職員会議等にも参加する。これにより、授業と学校運営の双方の視点から自らの課題を追究する。さらには、子どもの理解に基づき授業を展開する指導、校内の多様な意見を踏まえながら学校が抱える課題の解決を図る協働的態度について、実践的に検討する。課題設定・解決にあたっては、「授業・学級づくりチーム演習」と連動することで、理論を踏まえた実践となるようにする。</p>	共同
		教育実践実地研究Ⅰ (特別支援教育高度化P)	<p>本科目は、特別支援学校または特別支援学級（学生が自らの課題に基づいて実習先を設定）における実習活動を通して以下の内容を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別なニーズのある児童生徒の理解を深める。 2) 特別支援教育を実践している学校現場の特質や課題を理解する。 3) 特別なニーズのある児童生徒に対する教育方法および教師の姿勢を理解し、獲得する。 4) 学校現場の課題に基いた実践の改善を図る。 5) 特別支援教育を行うにあたっての自己の課題を具体化する。 <p>教職基盤形成コースの学生は、実習校の児童生徒の実態に基いた単元開発と実践を中心に行う。</p> <p>高度教職開発コースの学生は、勤務校の課題に基いた課題解決の企画と実施（教育課程開発、学校経営改善等）を中心に行いながら、その基盤としての、特別なニーズのある児童生徒の教育における実践力と省察力を向上させるサイクルを修得することを確かなものにする。</p>	共同
		教育実践実地研究Ⅱ	<p>本実習科目は、4月～12月にかけて、1回8時間の実習を35回行う（週1～2回×35週を目安とする）。実習生は、配属校で授業を行うとともに、学校行事、校内研究会や職員会議等にも参加する。これにより、授業と学校運営の双方の視点から自らの課題を追究する。さらには、子どもの理解に基づき授業を展開する指導、校内の多様な意見を踏まえながら学校が抱える課題の解決を図る協働的態度について、実践的に検討する。課題設定・解決にあたっては、「個に応じた教育チーム演習」及び「学校・地域活性化チーム演習」と連動することで、理論を踏まえた実践となるようにする。</p>	共同

<p>教育実践実地研究Ⅱ (特別支援教育高度化P)</p>	<p>本科目は、特別支援学校または特別支援学級（学生が自らの課題に基づいて実習先を設定）における実習活動を通して以下の内容を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別なニーズのある児童生徒の理解を深める。 2) 特別支援教育を実践している学校現場の特質や課題を理解する。 3) 特別なニーズのある児童生徒に対する教育方法および教師の姿勢を理解し、獲得する。 4) 学校現場の課題に基づいた実践の改善を図る。 5) 特別支援教育を行うにあたっての自己の課題を洗練する。 <p>教職基盤形成コースの学生は、実習校の児童生徒の実態に基づいた単元開発と実践を中心に行う。</p> <p>高度教職開発コースの学生は、勤務校の課題に基づいた課題解決の企画と実施（教育課程開発、学校経営改善等）を中心に行いながら、その基盤としての、特別なニーズのある児童生徒の教育における実践力と省察力を向上させるサイクルを修得することを確かなものにする。</p>	<p>共同</p>
-----------------------------------	---	-----------